

SDGs達成に向けたJICAの始動

JICAは2016年2月、持続可能な開発目標 (SDGs) を推進していくための体制を立ち上げ、SDGsへの組織的な取り組みを開始しました。

最初に着手したのが、本部、国内・海外拠点に勤務する職員、現地スタッフを対象にした勉強会です。計24回開催し、延べ1,300名以上がSDGsの基礎知識や国内外の潮流を学びました。次に、SDGs全体やゴールごとの取り組み方針について全部署で議論し、ポジシオン・ペーパーとして同年9月にまとめました。こ

の方針に基づき、SDGsに貢献する事業を進めています。

また、チャレンジングな目標であるSDGs達成に向けてパートナーシップのさらなる強化にも努めています。具体的には、シンポジウム等で民間企業、NGO、大学にSDGsに向けた取り組みへの参加を呼びかけているほか、JICA地球ひろばでは、SDGsへの関心を高め、理解を深めてもらうため、「私たちがつくる未来SDGs」と題した展示を2017年3月にスタートさせました。

SDGsの17ゴール



取り組み例

開発途上国のSDGs計画策定を支援

SDGsは17ゴールと幅広く、各地域・国により優先課題は異なります。特に開発途上国にとっては、自国の開発計画とSDGsの目標・ターゲットを戦略的に整合させ、効果的に取り組みを推進していく体制を構築することが必要です。

インドネシア政府と共に

インドネシアは、国家開発企画庁 (BAPPENAS) が中心となって、国の開発計画・戦略と整合性を取りながらSDGsを推進しています。インドネシア政府は、2016年1月、BAPPENAS内にSDGs事務局を設置。取り組みをさらに本格化するため、2017年7月に大統領令を公布しました。

JICAはBAPPENASからの要請を受けて、SDGs事務局をはじめとするBAPPENAS各局と協働しながら、インドネシア政府によるSDGs推進のための、①ターゲット

②指標、③行動計画、④モニタリング・評価体制の策定を支援しています。

アフリカでの地域横断的取り組み

アフリカ全体でSDGs達成を目指すための地域横断的な機関として、2017年1月、ルワンダの首都キガリに「アフリカ地域持続可能な開発目標センター (SDGC/A)」が設立されました。

理事会メンバーには各国大統領、大学教授、民間企業の代表などが名を連ね、アフリカの発意により設立されたことがわかります。ルワンダのカガメ大統領は「アフリカ人自らが生活を向上させるため、このSDGC/Aに知識と知恵の拠点“Knowledge Wisdom Center”としての役割を期待する」と開所式で発言しました。

各国が類似の課題を抱えるアフリカ地域では、モデル事業を複数国で実践し、学び合いの場を形成することが効果的です。JICAは、これまで重視してきた「キャパシティ・ディベロップメント」「ナレッジの共有」「途上国のオーナーシップ」の手法・視点を生かして、SDGC/Aと連携しながら、アフリカ地域のSDGs達成に向けて貢献していきます。



SDGC/A開所式の様子。右端がJICAの戸田上級審議役
【写真提供：ルワンダ政府】